「輸出国における検疫措置を必要とする植物に係る輸入検疫実施要領」(平成10年3月30日付け10農産第2122号農産園芸局長通達)の一部改正新 旧対照表

(下線部分は改正部分)

IE. 後 改

(目的及び定義)

- 施行規則(昭和25年農林省令第73号。以下「規則」という。)及び 輸入植物檢疫規程(昭和25年7月8日農林省告示第206号。以下「規 程」という。)に基づき、規則別表1の2及び別表2の2に掲げる植 物又は検疫指定物品(以下「検疫措置要求植物等」という。)に係る 輸入検疫を斉一かつ円滑に実施するため、この要領を定める。
- 検疫措置要求植物等の輸入検疫は、この要領によるほか、「輸入木材 檢疫要綱」(昭和 26 年 11 月 22 日付け 26 農局第 1843 号農政局長通達)、 「輸入穀類等検疫要綱」(昭和 46 年2月6日付け 45 農政第 2628 号農 政局長通達)、「海上コンテナー詰輸入植物検疫要領」(昭和 47 年8月 24 日付け 47 農政第 4502 号農政局長通達)、「輸入木材検疫要綱の運用 基準」(昭和51年3月1日付け50農蚕第7551号農蚕園芸局長通達)、 「輸入種苗検疫要綱」 (昭和53年9月30日付け53農蚕第6963号農 蚕園芸局長通達)、「特定重要病害虫検疫要綱」(昭和53年12月4日付 け53農蚕第8308号農蚕園芸局長通達)、「輸入青果物検疫要綱」(昭和 62年4月15日付け62農蚕第2006号農蚕園芸局長通達)及び「検疫指 定物品検疫要綱」(令和5年3月24日付け4消安第7162号消費・安全 局長通知) に基づき実施するものとする。
- 3 この要領は、貨物、携帯品、郵便物として輸入される検疫措置要求植 物等(輸入後、我が国において精選、加工・調整等の処理を行った上で 再輸出することを目的として輸入される植物を含む。以下同じ。)につ

正 前 改

(目的及び定義)

- 第1 植物防疫法(昭和25年法律第151号。以下「法」という。)、同法|第1 植物防疫法(昭和25年法律第151号。以下「法」という。)、同法 施行規則(昭和25年農林省令第73号。以下「規則」という。)及び 輸入植物檢疫規程(昭和25年7月8日農林省告示第206号。以下「規 程」という。)に基づき、規則別表1の2及び別表2の2に掲げる植 物(以下「検疫措置要求植物」という。)に係る輸入検疫を斉一かつ 円滑に実施するとともに、規則別表2の2に定める基準の確認に係 る手続を実施するため、この要領を定める。
  - 検疫措置要求植物の輸入検疫は、この要領によるほか、「輸入木材検 疫要綱」(昭和 26 年 11 月 22 日付け 26 農局第 1843 号農政局長通達)、 「輸入穀類等検疫要綱」(昭和 46 年2月6日付け 45 農政第 2628 号農 政局長通達)、「海上コンテナー詰輸入植物検疫要領」(昭和 47 年8月 24 日付け 47 農政第 4502 号農政局長通達)、「輸入木材検疫要綱の運用 基準」(昭和51年3月1日付け50農蚕第7551号農蚕園芸局長通達)、 「輸入種苗検疫要綱」 (昭和 53 年 9 月 30 日付け 53 農蚕第 6963 号農 蚕園芸局長通達)、「特定重要病害虫検疫要綱」(昭和53年12月4日付 け 53 農蚕第 8308 号農蚕園芸局長通達)及び「輸入青果物検疫要綱」 (昭和 62 年4月 15 日付け 62 農蚕第 2006 号農蚕園芸局長通達)に基 づき実施するものとする。
  - 3 この要領は、貨物、携帯品、郵便物として輸入される検疫措置要求植 物(輸入後、我が国において精選、加工・調整等の処理を行った上で再 輸出することを目的として輸入される植物を含む。以下同じ。)につい

いて適用するものとする。

(削る。)

(削る。)

# 4·5 (略)

6 規則別表1の2の9の項及び別表2の2の8の項から13の項までの 植物の欄に掲げる生植物の地下部(規則別表2の2の12の項に掲げる アヌビアス属植物及びアンスリューム属植物にあっては生植物)であ って、バーミキュライト、パーライト、みずごけ、ピートモス、ロック ウール、やしがら、へご、バーク、人工礫、木炭等の資材及びこれらの 混合物を用い、土と隔絶された環境で育成されたものについても、検疫 措置要求植物等に該当する。

ただし、二国間協議等により別途定めるものを除くものとする。

 $\underline{7}$  規則別表1の2の1の項、 $\underline{2}$ の項、 $\underline{5}$ の項、 $\underline{9}$ の項及び $\underline{11}$ の項から  $\underline{9}$  規則別表 $\underline{1}$ の $\underline{2}$ の $\underline{1}$ の項から $\underline{9}$ の項まで及び $\underline{11}$ の項から  $\underline{18}$ の項

て適用するものとする。

- 4 規則第9条第3号に規定する「植物(別表1の2に掲げる地域におい て栽培されたものを除く。)」とは、栽培されずに自然の環境下で生育し ているものをいう。
- 5 次の植物は前項の植物(規則別表1の2に掲げる地域において栽培 されたものを除く。)と同等物とみなすものとする
- (1) 規則別表1の2の3の項から9の項までの植物の欄に掲げる生植 物の地下部であって、これらの項に掲げる地域において栽培地検査 を受検せずに遺伝資源研究の用途に供する少量のもの。
- (2)規則別表1の2の 10 の項、19 の項及び 21 の項の植物の欄に掲げ る種子であって、これらの項に掲げる地域において栽培地検査を受 検せずに遺伝資源研究及び品種特性試験の用途に供する少量のも  $\mathcal{O}_{0}$
- (3) 規則別表1の2の1の項、2の項、7の項、11の項から18の項ま で及び24の項の植物の欄に掲げる生植物であって、これらの項に掲 げる地域において栽培地検査を受検せずに遺伝資源研究の用途に供 する少量のもの。

6·7 (略)

- 8 規則別表1の2の3の項から9の項までの植物の欄に掲げる生植物 の地下部(規則別表1の2の7の項に掲げるアヌビアス属植物及びア ンスリューム属植物にあっては生植物)であって、バーミキュライト、 パーライト、みずごけ、ピートモス、ロックウール、やしがら、へご、 バーク、人工礫、木炭等の資材及びこれらの混合物を用い、土と隔絶さ れた環境で育成されたものについても、検疫措置要求植物に該当する。 ただし、二国間協議等により別途定めるものを除くものとする。

14 の項までの植物の欄に掲げる生植物並びに規則別表2の2の1の項 から 19 の項まで、21 の項、27 の項及び 40 の項の植物の欄に掲げる生 植物であって、試験管、フラスコ等の中で無菌的に培養かつそれらに封 入され、これらの項に掲げる検疫有害動植物が付着しない状態で輸入 される植物は、検疫措置要求植物等に該当しないものとする。

疫措置要求植物等について我が国に輸出をしようとする国又は地域の 政府機関をいう。

(輸出国の政府機関に対する要求事項)

第2 検疫措置要求植物等に係る輸出国の政府機関に対する要求事項 第2 検疫措置要求植物に係る輸出国の政府機関に対する要求事項(以 (以下「要求事項」という。)は、別記1及び別記2のとおりとする。

(検査証明書の追記の確認)

第3 植物防疫官は、検疫措置要求植物等の輸入検査に先立ち、当該植物 | 第3 植物防疫官は、検疫措置要求植物の輸入検査に先立ち、当該植物に に添付された検査証明書に、第2の要求事項を満たしている旨の追記 がなされていることを確認する。

検査証明書に、規則別表の該当項目に応じた要求事項を満たしてい る旨の追記がなされている場合、第2の要求事項を満たしたものとみ なす。

- 2 植物防疫官は、検疫措置要求植物等が再輸出されたものである場合 │ 2 │ 植物防疫官は、検疫措置要求植物が再輸出されたものである場合に には、添付された再輸出証明書(再輸出国の検査証明書を含む。)に検 疫措置要求植物等の生産国が発行した検査証明書(原本又は写し)が 添付されており、かつ、第2の要求事項を満たしている旨の追記がな されていることを確認する。

での植物の欄に掲げる生植物並びに規則別表2の2の6の項から12の 項まで、15の項、18の項、19の項、21の項、32の項及び43の項の植 物の欄に掲げる生植物であって、試験管、フラスコ等の中で無菌的に培 養かつそれらに封入され、これまでの項に掲げる検疫有害動植物が付 着しない状態で輸入される植物は、検疫措置要求植物に該当しないも のとする。

8 規則別表1の2及び別表2の2に掲げる輸出国の政府機関とは、検 │10 規則別表2の2に掲げる輸出国の政府機関とは、検疫措置要求植物 について我が国に輸出をしようとする国又は地域の政府機関をいう。

(輸出国の政府機関に対する要求事項)

下「要求事項」という。)は、別記1及び別記2のとおりとする。

(検査証明書の追記の確認)

添付された検査証明書に、第2の要求事項を満たしている旨の追記が なされていることを確認する。

検査証明書に、規則別表の該当項目に応じた要求事項を満たしてい る旨の追記がなされている場合、第2の要求事項を満たしたものとみ なす。

- は、添付された再輸出証明書(再輸出国の検査証明書を含む。)に検疫 措置要求植物の生産国が発行した検査証明書(原本又は写し)が添付さ れており、かつ、第2の要求事項を満たしている旨の追記がなされてい ることを確認する。
- 3 植物防疫官は、別記1及び別記2に掲げる要求事項以外の方法で検 3 植物防疫官は、別記1及び別記2に掲げる要求事項以外の方法で検査

査した旨を追記した証明書が添付された検疫措置要求植物等について は、第2の要求事項を満たしたものとはみなさない。

(追記不備の措置)

第4 植物防疫官は、第3の結果、第2の要求事項を満たしている旨の追|第4 植物防疫官は、第3の結果、第2の要求事項を満たしている旨の追 記がなされていないと認めた場合には、自らこれを廃棄 (焼却等の措 置をいい、積戻しを含む。以下同じ。)し、又は輸入者若しくは管理 者に廃棄すべきことを命じなければならない。

ただし、当該植物が規則別表1の2の9の項及び別表2の2の8 の項から13の項までに掲げる植物(規則別表2の2の12の項に掲 げるアヌビアス属植物及びアンスリューム属植物を除く。)に該当す るときであって、輸入者から当該植物の地下部を除去して地上部を 輸入したい旨の申出があり、次の各号全てを満たすときに限り、輸入 検査を実施した後にその地下部の除去を認めることができる。

 $(1) \sim (3)$  (略)

2 植物防疫官は、第3の確認の結果、第2の要求事項を満たしている旨 の追記がなされていないと認めた検疫措置要求植物等については、輸 入後の用途変更を認めないものとする。ただし、前項ただし書きにより 地下部を除去して地上部の輸入を認めたものについては、この限りで ない。

(輸入検査及び措置)

第5 (略)

(削る。)

した旨を追記した証明書が添付された検疫措置要求植物については、 第2の要求事項を満たしたものとはみなさない。

(追記不備の措置)

記がなされていないと認めた場合には、自らこれを廃棄 (焼却等の措 置をいい、積戻しを含む。以下同じ。)し、又は輸入者若しくは管理 者に廃棄すべきことを命じなければならない。

ただし、当該植物が規則別表1の2の3の項から9の項までに掲 げる植物 (規則別表1の2の7の項に掲げるアヌビアス属植物及び アンスリューム属植物を除く。)に該当するときであって、輸入者か ら当該植物の地下部を除去して地上部を輸入したい旨の申出があ り、次の各号全てを満たすときに限り、輸入検査を実施した後にその 地下部の除去を認めることができる。

 $(1) \sim (3)$  (略)

2 植物防疫官は、第3の確認の結果、第2の要求事項を満たしている旨 の追記がなされていないと認めた検疫措置要求植物については、輸入 後の用途変更を認めないものとする。ただし、前項ただし書きにより地 下部を除去して地上部の輸入を認めたものについては、この限りでな V )

(輸入検査及び措置)

第5 (略)

2 植物防疫官は、別記3により確認した作業計画に基づき表示、封印等 のこん包条件を要求する植物の場合にあっては、輸入検査において、こ ん包条件の適否を確認しなければならない。なお、当該こん包条件を満 たさないときは、自ら当該植物を廃棄し、又は輸入者若しくは管理者に

- 2 植物防疫官は、1項の輸入検査(法第8条第7項の規定に基づき、更に隔離栽培による検査を行う場合にあっては、当該検査を含む。)の結果、規程<u>第2条第1項に規定する場合</u>に該当すると認めた場合は、これを合格とする。
- 3 植物防疫官は、輸入検査の結果、第2の要求事項の対象とする検疫有害動植物の付着を認めた場合は、自ら当該植物を廃棄し、又は輸入者若しくは管理者に廃棄すべきことを命じなければならない。ただし、規則別表1の2の9の項及び別表2の2の8の項から13の項までに掲げる検疫有害動物が認められた場合は、第4の1項のただし書を準用することができる。
- 4 植物防疫官は、輸入検査の結果、規則別表1の2の<u>1の項及び3の項から5の項まで</u>並びに規則別表2の2の<u>1の項、2の項及び7の項</u>に掲げる検疫有害動植物の付着を認めた場合は、前項の規定にかかわらず、自ら当該植物を消毒し、又は輸入者若しくは管理者に消毒すべきことを命じることができる。

(削る。)

(植物検疫に関する政府機関を有しない国から輸出される<u>検疫措置要</u> 求植物等) 廃棄すべきことを命じなければならない。

- 3 植物防疫官は、1項の輸入検査(法第8条第7項の規定に基づき、更に隔離栽培による検査を行う場合にあっては、当該検査を含む。)の結果、規程<u>第2条の各号</u>に該当すると認めた場合は、これを合格とする。
- 4 植物防疫官は、輸入検査の結果、第2の要求事項の対象とする有害動植物の付着を認めた場合は、自ら当該植物を廃棄し、又は輸入者若しくは管理者に廃棄すべきことを命じなければならない。ただし、規則別表1の2の3の項から9の項までに掲げる栽培地検査対象検疫有害動物が認められた場合は、第4の1項のただし書を準用することができる。
- 5 植物防疫官は、輸入検査の結果、規則別表1の2の2の項並びに規則別表2の2の6の項から8の項まで及び13の項から15の項までに掲げる検疫有害動植物の付着を認めた場合は、前項の規定にかかわらず、自ら当該植物を消毒し、又は輸入者若しくは管理者に消毒すべきことを命じることができる。

(輸入禁止)

第6 植物防疫官は、第1の4項の植物又は第1の5項の(1)から(3) までの植物が輸入された場合は、法第9条第3項に基づきこれを廃棄するものとする。ただし、当該植物が法第7条第1項ただし書に基づき農林水産大臣の許可を得たものである場合には、「輸入禁止品に関する農林水産大臣の輸入許可手続実施要綱」(平成10年3月30日付け10農産第2441号農産園芸局長通達)により取扱う。

(植物検疫に関する政府機関を有しない国から輸出される<u>検疫措置要</u> 求植物) 第<u>6</u> 規則別表1の2及び規則別表2の2に掲げる地域のうち植物検疫に係る政府機関を有しない国から輸出される<u>検疫措置要求植物等</u>は、当該地域における必要な検疫措置が実施されないため、輸入を認めないものとする。ただし、規則別表1の2の9の項<u>及び別表2の2の8の項から13の項</u>までに掲げる植物(規則別表<u>2の2の12の項</u>に掲げるアヌビアス属植物及びアンスリューム属植物を除く。)であって、輸入者から当該植物の地下部を除去して輸入したい旨の申出があった場合には、第4の1項のただし書及び2項のただし書を準用する。

(削る。)

#### 別記1 (第2関係)

規則別表1の2に掲げる植物<u>又は検疫指定物品に係る基準の実施</u>に関する輸出国への要求事項

検疫有害動植物 <u>等</u>	要求事項
1 Bactericera trigonica	当該植物が輸出される前に、
	葉に付着した卵の有無並びに
	<u>茎葉に損害を与える幼虫及び</u>
	成虫の有無の検査を行って本
	<u>害虫に侵されていないことを</u>
	確認し、その旨を検査証明書に
	追記すること。なお、本害虫に
	侵されていることが確認され
	た場合は、消毒を行うことがで

第7 規則別表1の2及び規則別表2の2に掲げる地域のうち植物検疫に係る政府機関を有しない国から輸出される<u>検疫措置要求植物</u>は、当該地域における必要な検疫措置が実施されないため、輸入を認めないものとする。ただし、規則別表1の2の3の項から9の項までに掲げる植物(規則別表1の2の7の項に掲げるアヌビアス属植物及びアンスリューム属植物を除く。)であって、輸入者から当該植物の地下部を除去して輸入したい旨の申出があった場合には、第4の1項のただし書及び2項のただし書を準用する。

(規則別表2の2に定める基準の確認に係る手続)

第8 規則別表2の2に定める基準に係る地域指定の手続又は殺虫処理 の方法の確認手続は、別記3のとおりとする。

#### 別記1 (第2関係)

規則別表1の2に掲げる植物に関する輸出国への要求事項

検疫有害動植物	要求事項
1 <u>Aleurocanthus woglumi</u>	本害虫の防除が十分に行わ
(ミカンクロトゲコナジラ	れたほ場 (栽培施設を含む。) で
<u>3)</u>	栽培され、当該植物が輸出され
	<u>る前の3か月間、毎月1回栽培</u>
	地検査 (葉裏に渦巻状に産み付
	けられた卵の有無並びにすす
	病で汚染された葉裏の幼虫、蛹
	及び成虫の有無の検査)を行っ
	て本害虫の発生がないことを

ı	1	i i		ı
	きるものとし、当該消毒を行っ			確認し、その旨を検査証明書に
	たときは、その旨(当該消毒を			追記すること。
	行った日付及びその方法を含			
	む。)を検査証明書の所定の欄			
	に記載及び当該消毒を行って			
	本害虫に侵されていないこと			
	を検査証明書に追記すること。			
2 Circulifer tenellus (テ	当該植物が輸出される前に、		2 Tuta absoluta (トマトキ	当該植物の収穫までの2か月
ンサイヨコバイ)_	<b>           </b>		<u> </u>	間、本害虫についてトラップに
	けられた卵の有無並びに茎葉			よる監視及び防除が十分に行
	に損害を与える幼虫及び成虫			   われたほ場 (栽培施設を含む。)
	の有無の検査を行って本害虫			で栽培され、定期的に栽培地検
	  に侵されていないことを確認			査を行って本害虫の発生がな
	し、その旨を検査証明書に追記			-   いことを確認し、その旨を検査
	すること。			証明書に追記すること。
3 Scolytus multistriatus	当該植物が輸出される前に、		3 <u>Meloidogyne chitwoodi</u>	本線虫の発生が知られてい
(セスジキクイムシ)	侵入孔及び脱出孔の有無並び		(コロンビアネコブセンチ	ないほ場で栽培され、当該植物
	に樹皮下の孔道内の幼虫、蛹及		ュウ)	の生育期に栽培地検査を行う
4 Scolytus scolytus (∃—	び成虫の有無の検査を行って		4 Heterodera schachtii (テ	とともに、当該植物の地下部及
ロッパニレノキクイムシ)	本害虫に侵されていないこと		ンサイシストセンチュウ)	び培養資材について試料を採
	を確認し、その旨を検査証明書		<u> </u>	取し、検定を行って本線虫がい
	に追記すること。なお、本害虫			ないことを確認し、その旨を検
	に侵されていることが確認さ			査証明書に追記すること。
	れた場合は、消毒を行うことが			
	できるものとし、当該消毒を行			
	ったときは、その旨(当該消毒			

į į	ı	1	I	ſ
	<u>を行った日付及びその方法を</u>			
	含む。)を検査証明書の所定の			
	欄に記載及び当該消毒を行っ			
	て本害虫に侵されていないこ			
	とを検査証明書に追記するこ			
	<u>Ł.</u>			
5 <i>Trioza apicalis</i>	当該植物が輸出される前に、		5 Meloidogyne fallax (ニセ	
	葉に付着した卵の有無並びに		コロンビアネコブセンチュ	
			ウ)	
	成虫の有無の検査を行って本			
	害虫に侵されていないことを			
	確認し、その旨を検査証明書に			
	追記すること。なお、本害虫に			
	侵されていることが確認され			
	た場合は、消毒を行うことがで			
	きるものとし、当該消毒を行っ			
	たときは、その旨(当該消毒を			
	行った日付及びその方法を含			
	む。)を検査証明書の所定の欄			
	に記載及び当該消毒を行って			
	本害虫に侵されていないこと			
	を検査証明書に追記すること。			
6 <u>Zucchini green mottle</u>	(1) 種子について		6 <u>Nacobbus aberrans</u> (ニセ	
<u>mosaic virus</u>	採種用の親植物又は種		<u>ネコブセンチュウ)</u>	
	子について 次の方法によ			
	り ELISA 法等の適切な血清			

学的診断法又は RT-PCR 法 等の適切な遺伝子診断法 による検定を行って本ウ イルスに侵されていない ことを確認し、その旨を検 査証明書に追記すること。 ア 親植物の検定は、無作 為に抽出した植物及び 病徴の疑われる植物に ついて行うこと。 イ 種子の検定は、輸出ま でに、国際種子検定協会 が定める国際種子検査 規程の抽出方法に準拠 した方法で同一の荷口 単位から無作為に抽出 した 4,600 粒について、 最大 100 粒ずつ行うこ なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000 粒未満の場合は、 当該荷口単位に含まれ る種子数の 10%を抽出 し、検定に供すること。 (2) 生植物について 生育期間中又は収穫か

ら輸出までに、同一の荷口 単位から無作為に抽出し た植物及び病徴の疑われ る植物について、ELISA 法 等の適切な血清学的診断 法又は RT-PCR 法等の適 切な遺伝子診断法による 検定を行って本ウイルス に侵されていないことを 確認し、その旨を検査証明 書に追記すること。		
(1) 採種用の親植物について、媒介昆虫の防除が十分に行われたほ場で栽培され、生育最盛期に栽培地検査を行って本ウイルスの発生がないことを確認すること。 (2) 採種用の親植物又は種子について、次の方法によりELISA 法等の適切な血清学的診断法による検定を行って本ウイルスに侵され	10	

	ブルカルフ しょか知 ナフ			1
	ていないことを確認する			
	<u>こと。</u> ア 親植物の検定は、無作			
	為に抽出した植物及び			
	病徴の疑われる植物に			
	<u>ついて行うこと。</u>			
	イ 種子の検定は、輸出ま では、同際耗スや字物へ			
	でに、国際種子検定協会			
	が定める国際種子検査			
	規程の抽出方法に準拠したまなる。			
	した方法で同一の荷口			
	単位から無作為に抽出			
	した 4,600 粒について、			
	最大 100 粒ずつ行うこ			
	<u> </u>			
	なお、同一の荷口単位			
	に含まれる種子が			
	46,000 粒未満の場合は、			
	当該荷口単位に含まれ			
	<u>る種子数の 10%を抽出</u>			
	し、検定に供すること。			
8 <u>Broad bean true mosaic</u>	(1)種子について		8 <u>Meloidogyne enterolobii</u>	
virus (ソラマメトゥルーモ	次のいずれかの措置を			
<u>ザイクウイルス)</u>	行って本ウイルスに侵さ			
	れていないことを確認し、			
	その旨を検査証明書に追			
	記すること。	11		

ア 採種用の親植物につ
いて、媒介昆虫の防除が
十分に行われたほ場で
栽培され、生育最盛期に
栽培地検査を行って本
ウイルスの発生がない
ことを確認すること。
<u>イ</u> 採種用の親植物又は
により ELISA 法等の適切
な血清学的診断法によ
る検定を行って本ウイ
ルスに侵されていない
ことを確認すること。
(ア) 親植物の検定は、無
作為に抽出した植物
及び病徴の疑われる
植物について行うこ
<u>と。</u> (1) 種での於字は、絵山
(イ)種子の検定は、輸出
までに、国際種子検定
協会が定める国際種
子検査規程の抽出方
法に準拠した方法で
同一の荷口単位から
無作為に抽出した
<u>4,600 粒について、最</u>

<u>大 100 粒ずつ行うこ</u> と。

なお、同一の荷口単位に含まれる種子が46,000 粒末満の場合は、当該荷口単位に含まれる種子数の10%を抽出し、検定に供すること。

# (2) 生植物について

次のいずれかの措置を 行って本ウイルスに侵さ れていないことを確認し、 その旨を検査証明書に追 記すること。

- ア 媒介昆虫の防除が十 分に行われたほ場で栽培され、生育最盛期に栽培地検査を行って本ウイルスの発生がないことを確認すること。
- イ 生育期間中又は輸出 前までに、同一の荷口単 位から無作為に抽出し た植物及び病徴の疑わ れる植物について、 ELISA 法等の適切な血清

	学的診断法による検定
	を行って本ウイルスに
	侵されていないことを
	確認すること。
9 Xiphinema index (ブドウ	本線虫の発生が知られてい
オオハリセンチュウ)	ないほ場で栽培され、当該植物
	の生育期間中に栽培地検査を
	行うとともに、当該植物の地下
	部及び培養資材について試料
	を採取し、検定を行って本線虫
	がいないことを確認し、その旨
	を検査証明書に追記すること。
10 (略)	(略)
11 <u>Deuterophoma</u>	当該植物の生育期間中に栽
<u>tracheiphila</u>	培地検査を行って本菌の発生
	がないことを確認し、その旨を
	検査証明書に追記すること。
12 <u>Peronospora chlorae (}</u>	(1) 種子について
ルコギキョウベと病菌)	<u>採種用の親植物につい</u>
	て、本菌の発生がない状態
	が維持されている地域 (ほ
	場及び栽培施設を含む。)
	として輸出国の政府機関
	が指定する地域で栽培さ
	れたことを確認し、その旨
	を検査証明書に追記する

9 Xiphinema index (ブドウ オオハリセンチュウ)	
10 (略)	(略)
11 <u>Phytophthora kernoviae</u>	本菌の発生が知られていないは場で栽培され、当該植物の生育期に栽培地検査を行って本菌の発生がないことを確認
12 <u>Phytophthora ramorum</u>	<u>し、その旨を検査証明書に追記</u> <u>すること</u> 。

	<u>こと。</u>					
	。 (2) 生植物について					
	本菌の発生がない状態					
	が維持されている地域で					
	栽培された親植物から採					
	種された種子から生産さ					
	れ、本菌の発生がない状態					
	が維持されている施設と					
	して輸出国の政府機関が					
	指定する栽培施設で次の					
	措置を行って栽培された					
	ものについて、未使用の又					
	は 60℃以上で 30 分間以					
	上熱処理された培養資材					
	が使用されていることを					
	確認し、その旨を検査証明					
	書に追記すること。					
	ア 栽培施設及び栽培に					
	用いる器具の消毒					
	<u>イ</u> 生育期間中の薬剤散					
	<u>布</u>					1
13 Apiosporina morbosa	当該植物の <u>生育期間中</u> に栽	13	Apiosporina mor	bosa	当該植物の <u>生育期中</u> に栽培	
	培地検査を行って本菌の発生				地検査を行って本菌の発生が	
	がないことを確認し、その旨を				ないことを確認し、その旨を検	
	検査証明書に追記すること。				査証明書に追記すること。	
14 Bretziella fagacearum	(1) 生植物について	14	Bretziella fag	gacearum	媒介昆虫の防除が十分に行	

(ナラ類しおれ病菌)	媒介昆虫の防除が十分	   (ナラ類しおね	れ病菌)	われたほ場(栽培施設を含む。)
	に行われたほ場 (栽培施設			で栽培され、当該植物の生育期
	を含む。)で栽培され、当該			中に栽培地検査を行って本菌
	植物の <u>生育期間中</u> に栽培			 の発生がないことを確認し、そ
	地検査を行って本菌の発			の旨を検査証明書に追記する
	生がないことを確認し、そ			こと。
	の旨を検査証明書に追記			
	すること。			
	(2)培養資材及び根回りの被			(新設)
	覆の用に供する資材につ			
	<u> </u>			
	71℃以上で 75 分間以			
	上の熱処理を受けたこと			
	を処理した日付とともに			
	検査証明書の所定の欄に			
	記載及び当該熱処理を実			
	施して本菌に侵されてい			
	ないことを検査証明書に			
	<u>追記すること。</u>			
15 土又は植物残さ	規則第5条各号に掲げる指定	15	<u>Deuterophoma</u>	当該植物の生育期中に栽培
	物品(中古のものに限る。)につ	<u>tracheiphila</u>		地検査を行って本菌の発生が
	いて、輸出前に清掃が行われた			ないことを確認し、その旨を検
	こと及び輸出国の政府機関に			査証明書に追記すること。
	より行われた検査の結果土又			
	は植物残さがないことを検査			
	証明書に追記すること。			

(削る。)	
(削る。)	
(жі у )	
(削る。)	

16 Eutypa lata	
17 Guignardia citricarpa	当該植物の着果期間中にそ
	の果実について栽培地検査を
	行って本菌の発生がないこと
	を確認し、その旨を検査証明書
	に追記すること。
18 Sphaeropsis tumefaciens	当該植物の生育期中に栽培
(カンキツ類てんぐ巣病菌)	地検査を行って本菌の発生が
	ないことを確認し、その旨を検
	査証明書に追記すること。
19 <u>Curtobacterium</u>	採種用の親植物について、生
<i>flaccumfaciens</i> pv.	育後期に栽培地検査を行って
flaccumfaciens (インゲンマ	本細菌の発生がないことを確
メ萎ちょう細菌病菌)	認し、その旨を検査証明書に追
	<u>記すること。</u>
20 削除	
21 <u>Clavibacter</u>	採種用の親植物について、生
<i>michiganensis</i> subsp.	育最盛期に栽培地検査を行っ
nebraskensis (トウモロコシ	て本細菌の発生がないことを
葉枯細菌病菌)	確認し、その旨を検査証明書に
	追記すること。
22 削除	
23 削除	
24 Plum pox virus (ウメ輪紋	媒介昆虫の防除が十分に行
<u>ウイルス)</u>	われたほ場で栽培され、当該植

別記2 (第2関係)

規則別表2の2に<u>掲げる植物に係る</u>基準の実施に関する輸出国への要求事項

検疫有害動植物	要求事項
1 <u>Bactericera cockerelli</u>	当該植物が輸出される前に、
	葉に付着した卵の有無並びに
	<u>茎葉又は果実に損害を与える</u>
	幼虫及び成虫の有無の検査を
	行って本害虫に侵されていな
	いことを確認し、その旨を検査
	証明書に追記すること。なお、
	本害虫に侵されていることが
	確認された場合は、消毒を行う
	ことができるものとし、当該消
	毒を行ったときは、その旨(当
	該消毒を行った日付及びその
	方法を含む。)を検査証明書の
	所定の欄に記載及び当該消毒
	を行って本害虫に侵されてい
	ないことを検査証明書に追記
	<u>すること。</u>

物の生育初期に栽培地検査を 行って本ウイルスの発生がないことを確認し、その旨を検査 証明書に追記すること。

別記2 (第2関係)

規則別表2の2に定める基準の実施に関する輸出国への要求事項

検疫有害動植物	要求事項
1 <u>Anastrepha fraterculus</u>	輸出国の政府機関が別記3
(ミナミアメリカミバエ)	の1の(1)に定める事項を記
	載した作業計画を作成し、か
	つ、当該作業計画が科学的かつ
	技術的な見地からみて適切で
	あることを植物検疫当局 (農林
	水産省消費・安全局植物防疫課
	及び植物防疫所 (那覇植物防疫
	事務所を含む。) をいう。以下同
	じ。)により確認された場合、輸
	出国の政府機関は当該作業計
	画に基づいて行う監督の下、次
	のいずれかの措置を行って本
	<u>害虫に侵されていないことを</u>
	確認し、その旨を検査証明書に
	追記すること。
	(1) 本害虫が発生していない

			-	ı .
2 <u>Bactericera nigricornis</u>	当該植物が輸出される前に、		2 <u>Anastrepha grandis</u>	状態が維持されている地
	葉に付着した卵の有無並びに			域として輸出国の政府機
	<u>茎葉に損害を与える幼虫及び</u>			関が植物検疫当局に認め
	成虫の有無の検査を行って本			られた手続により指定す
	<u>害虫に侵されていないことを</u>			<u>る地域において生産され</u>
	確認し、その旨を検査証明書に			<u>ること。</u>
	追記すること。なお、本害虫に			(2)輸出国の政府機関が指定
	侵されていることが確認され			する処理施設において、植
	た場合は、消毒を行うことがで			物検疫当局に認められた
	きるものとし、当該消毒を行っ			方法により本害虫の殺虫
	たときは、その旨(当該消毒を			処理が行われること。な
	行った日付及びその方法を含			お、当該殺虫処理を行った
	む。)を検査証明書の所定の欄			場合は、その旨(当該殺虫
	に記載及び当該消毒を行って			処理を行った日付及びそ
	本害虫に侵されていないこと			の方法を含む。)を検査証
	を検査証明書に追記すること。			明書の所定の欄に追記す
3 Diabrotica	当該植物が輸出される前に、		3 Anastrepha ludens (メキ	ること。
undecimpunctata (ジュウイ	根に損害を与える幼虫の有無		シコミバエ)	
			<u> </u>	
<u>チホシウリハムシ)</u>	及び茎葉に損害を与える成虫		A A	
4 Naupactus leucoloma (>	の有無の検査を行って本害虫		4 Anastrepha obliqua (ニシ	
ロヘリクチブトゾウムシ)	に侵されていないことを確認		<u>インドミバエ)</u>	
5 <u>Otiorhynchus ovatus (1</u>	し、その旨を検査証明書に追記		5 <u>Anastrepha suspensa</u> (力	
<u>チゴクチブトゾウムシ)</u>	<u>すること。</u>		<u>リブミバエ)</u>	

6	<u>Aleurocanthus</u>	woglumi
_	(ミカンクロトゲ	コナジラ
-	$\lesssim$ )	

本害虫の防除が十分に行われたほ場(栽培施設を含む。)で栽培され、当該植物が輸出されるまでの3か月間、毎月1回栽培地検査(葉裏に渦巻状に産み付けられた卵の有無並びにすす病で汚染された葉裏の幼虫、蛹及び成虫の有無の検査)を行って本害虫の発生がないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

# 7 <u>Tuta absoluta (トマトキ</u> バガ)

当該植物の収穫までの2か月間、本害虫についてトラップによる監視及び防除が十分に行われたほ場(栽培施設を含む。)で栽培され、定期的に栽培地検査を行って本害虫の発生がないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

#### 6 Bactericera cockerelli

当該植物が輸出される前に、 葉に付着した卵の有無並びに 茎葉又は果実に損害を与える 幼虫及び成虫の有無の検査を 行って本害虫に侵されていな いことを確認し、その旨を検査 証明書に追記すること。なお、 本害虫に侵されていることが 確認された場合は、消毒を行う ことができるものとし、当該消 毒を行った場合にあっては、そ の旨(当該消毒を行った日付及 びその方法を含む。)を検査証 明書の所定の欄に記載し、か つ、当該消毒を行って本害虫に 侵されていないことを検査証 明書に追記すること。

#### 7 Bactericera nigricornis

当該植物が輸出される前に、 葉に付着した卵の有無並びに 茎葉に損害を与える幼虫及び 成虫の有無の検査を行って本 害虫に侵されていないことを 確認し、その旨を検査証明書に 追記すること。なお、本害虫に 侵されていることが確認され た場合は、消毒を行うことがで きるものとし、当該消毒を行っ

				た場合にあっては、その旨(当 該消毒を行った日付及びその 方法を含む。)を検査証明書の 所定の欄に記載し、かつ、当該 消毒を行って本害虫に侵され ていないことを検査証明書に 追記すること。
8 <u>Meloidogyne chit</u> (コロンビアネコブセ ュウ)		8	Bactericera trigonica	当該植物が輸出される前に、 葉に付着した卵の有無並びに 茎葉に損害を与える幼虫及び 成虫の有無の検査を行って本 害虫に侵されていないことを 確認し、その旨を検査証明書に 追記すること。なお、本害虫に 侵されていることが確認され た場合は、消毒を行うことがで きるものとし、その旨(当該消 毒を行った日付及びその方法 を含む。)を検査証明書の所定 の欄に記載し、かつ、当該消毒 を行って本害虫に侵されてい ないことを検査証明書に追記
9 <u>Heterodera schachti</u>	<u>i (テ</u>	9	<u>Circulifer tenellus (テ</u>	すること。         当該植物が輸出される前に、

<u>ンサイシストセンチュウ)</u>		ンサイヨコバイ)	<u>茎葉に差し込むように産み付</u>
			けられた卵の有無並びに茎葉
			に損害を与える幼虫及び成虫
			の有無の検査を行って本害虫
			に侵されていないことを確認
			し、その旨を検査証明書に追記
			すること。
10 Malaidaguna fallay (-tz	1	10 Dishmetica	
10 <u>Meloidogyne fallax</u> (ニセ		10 <u>Diabrotica</u>	当該植物が輸出される前に、
<u>コロンビアネコブセンチュ</u>		<u>undecimpunctata</u> (ジュウイ	根に損害を与える幼虫の有無
<u> </u>		<u>チホシウリハムシ)</u>	及び茎葉に損害を与える成虫
11 <u>Nacobbus aberrans</u> (ニセ		11 <u>Naupactus leucoloma</u> (シ	の有無の検査を行って本害虫
<u>ネコブセンチュウ)</u>		ロヘリクチブトゾウムシ)	に侵されていないことを確認
12 Radopholus similis (バナ		12 Otiorhynchus ovatus (イ	し、その旨を検査証明書に追記
ナネモグリセンチュウ)		チゴクチブトゾウムシ)	<u>すること。</u>
13 Meloidogyne enterolobii		13 Scolytus multistriatus	当該植物が輸出される前に、
		(セスジキクイムシ)	侵入孔及び脱出孔の有無並び
			   に樹皮下の孔道内の幼虫、蛹及
			び成虫の有無の検査を行って
			本害虫に侵されていないこと
			を確認し、その旨を検査証明書
			に追記すること。なお、本害虫
			に侵されていることが確認さ
	• •		•

			れた場合は、消毒を行うことができるものとし、その旨(当該消毒を行った日付及びその方法を含む。)を検査証明書の所定の欄に記載し、かつ、当該消毒を行って本害虫に侵されていないことを検査証明書に追記すること。	
14 <u>Eutypa lata</u>	当該植物の生育期間中に栽培地検査を行って本菌の発生がないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。	14 <u>Scolytus scolytus (ヨーロッパニレノキクイムシ)</u>		
15 <u>Guignardia citricarpa</u>	当該植物の着果期間中にその果実について栽培地検査を行って本菌の発生がないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。	15 <u>Trioza apicalis</u>	当該植物が輸出される前に、 葉に付着した卵の有無並びに 茎葉に損害を与える幼虫及び 成虫の有無の検査を行って本 害虫に侵されていないことを 確認し、その旨を検査証明書に 追記すること。なお、本害虫に 侵されていることが確認され	

	1		ı			1
						きるものとし、その旨(当該消
						毒を行った日付及びその方法
						を含む)を検査証明書の所定の
						欄に記載し、かつ、当該消毒を
						行って本害虫に侵されていな
						いことを検査証明書に追記す
						<u>ること。</u>
16 Phytophthora kernoviae			16	6 Phytop	ohthora kernoviae	(新設)
	本菌の発生が知られて					
17 Phytophthora ramorum	<u>いないほ場で栽培され、当</u>		1'	7 Phytop	ohthora ramorum	
	該植物の生育期間中に栽					
	培地検査を行って本菌の					
	発生がないことを確認し、					
	その旨を検査証明書に追					
	記すること。					
	(2)培養資材及び根回りの被					培養資材及び根回りの被覆
	覆の用に供する資材につ					の用に供する資材について、
	<u>vr</u>					71℃以上で 75 分間以上の熱処
	71℃以上で 75 分間以					理を受けたことを処理した日
	上の熱処理を受けたこと					付とともに検査証明書の所定
	を処理した日付とともに					の欄に記載し、かつ、当該熱処
	検査証明書の所定の欄に					理を実施して本菌に侵されて
	記載し、かつ、当該熱処理					いないことを検査証明書に追
	を実施して本菌に侵され					記すること。
	ていないことを検査証明					
	書に追記すること。					

18 (略)	(略)
19 <i>Acidovorax avenae</i> subsp.	(1) 種子について
citrulli (スイカ果実汚斑細	次のいずれかの措置を
菌病菌)	行って本細菌に侵されて
	いないことを確認し、その
	旨を検査証明書に追記す
	ること。
	ア (略)
	イ 輸出までに、栽培検定
	又は PCR 法、LAMP 法等の
	適切な遺伝子診断法に
	よる検定を行うこと。検
	定は、国際種子検査協会
	が定める国際種子検査
	規程の抽出方法に準拠
	した方法で同一の荷口
	単位から無作為に抽出
	した 30,000 粒について
	行うこと。 なお、同一の
	荷口単位に含まれる種
	子が300,000粒未満の場
	合 <u>は</u> 、当該荷口単位に含
	まれる種子数の 10%を
	抽出し、検定に供するこ
	と。
	(2) 生植物について
	以下のいずれかの種子

18 (略)	(略)
19 <i>Acidovorax avenae</i> subsp.	(1) 種子について
citrulli (スイカ果実汚斑細	次のいずれかの措置を
菌病菌)	行って本細菌に侵されて
	いないことを確認し、その
	旨を検査証明書に追記す
	ること。
	ア (略)
	イ 輸出までに、栽培検定
	又は PCR 法、LAMP 法等の
	適切な <u>遺伝子的手法</u> に
	よる検定を行うこと。検
	定は、国際種子検査協会
	が定める国際種子検査
	規程の抽出方法に準拠
	した方法で同一の荷口
	単位から無作為に抽出
	した 30,000 粒について
	行うこと。なお、同一の
	荷口単位に含まれる種
	子が300,000粒未満の場
	合、当該荷口単位に含ま
	れる種子数の 10%を抽
	出し検定に供すること。
	(2) 生植物について
	以下のいずれかの種子

	であって本細菌に侵されていないことが確認されている種子から生産され、本細菌の汚染防止措置が行われているほ場(栽培を含む。)で栽培を含む。)で栽培を含む。)で、当該植物の制造を含む。が有無の検査を行って、当該他のについないに、、病徴の細菌を確認し、その旨を検査証明書に追記すること。ア(略)イ 栽培検定又はPCR法、LAMP 法等の適切な遺伝			であって本細菌に侵されている種子から生産され、本細菌の汚染防止措置が行われている種子がらは場(栽培を含む。)で栽培植物を含む。)で栽培植物が輸出を含む。)で、当該種のに、大の質を行って、当該種のは、大の質を作るいた。では、その質を検査証明書に追記すること。ア(略)イ栽培検定又は PCR 法、LAMP 法等の適切な遺伝
20 Candidatus Liberibacter solanacearum	行った種子 当該植物の生育期間中又は収穫から輸出までに、同一の荷口単位から無作為に抽出した植物及び病徴の疑われる植物について、PCR 法等の適切な遺伝子診断法による検定を行って本細菌に侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。		20 Candidatus Liberibacter solanacearum	当該植物の生育期中又は収穫から輸出までに、同一の荷口単位から無作為に抽出した植物及び病徴の疑われる植物について、PCR 法等の適切な遺伝子的手法による検定を行って本細菌に侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

21 <i>Pseudomonas syringae</i> pv.	(1) 花粉について
actinidiae biovar3	本細菌の発生がない状
	態が維持されているほ場
	として輸出国の政府機関
	が指定するほ場で栽培さ
	れた花から採取され、か
	つ、PCR 法等の適切な <u>遺伝</u>
	<u>子診断法</u> による検定を行
	って本細菌に侵されてい
	ないことを確認し、その旨
	を検査証明書に追記する
	こと。
	(2) (略)
22 Spiroplasma citri	当該植物の展葉期に、同一の
	荷口単位から無作為に抽出し
	た植物及び病徴の疑われる植
	物について、ELISA 法等の適切
	な <u>血清学的診断法</u> 又はPCR法等
23 Xylella fastidiosa	の適切な <u>遺伝子診断法</u> による
	検定を行って本細菌に侵され
	ていないことを確認し、その旨
	を検査証明書に追記すること。
24 Potato spindle tuber	
viroid (ジャガイモやせいも	採種用の親植物又は種
ウイロイド)	子について <u>、次の方法によ</u>

21 <i>Pseudomonas syringae</i> pv.	(1) 花粉について
<i>actinidiae</i> biovar3	本細菌の発生がない状
	態が維持されているほ場
	として輸出国の政府機関
	が指定するほ場で栽培さ
	れた花から採取され、か
	つ、PCR 法等の適切な <u>遺伝</u>
	<u>子的手法</u> による検定を行
	って本細菌に侵されてい
	ないことを確認し、その旨
	を検査証明書に追記する
	こと。
	(2) (略)
22 Spiroplasma citri	当該植物の展葉期に、同一の
	荷口単位から無作為に抽出し
	た植物及び病徴の疑われる植
	物について、ELISA 法等の適切
	な <u>血清学的方法</u> 又はPCR法等の
23 Xylella fastidiosa	適切な <u>遺伝子的手法</u> による検
	定を行って本細菌に侵されて
	いないことを確認し、その旨を
	検査証明書に追記すること。
24 Potato spindle tuber	(1) 種子について
viroid (ジャガイモやせいも	採種用の親植物又は種

り RT-PCR 法等の適切な<u>遺</u> 伝子診断法による検定を 行って本ウイロイドに侵 されていないことを確認 し、その旨を検査証明書に 追記すること。

#### ア (略)

イ 種子の検定は、輸出までに、国際種子検査協会が定める国際種子検査規程の抽出方法に準拠した方法で同一の荷口単位から無作為に抽出した4,600粒について、最大400粒でつけること。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000粒未満の場合<u>は</u>、 当該荷口単位に含まれ る種子数の 10%を抽出 し<u></u>検定に供すること。

## (2) 生植物について

生育期間中又は収穫から輸出までに、同一の荷口単位から無作為に抽出した植物及び病徴の疑われ

適切な遺伝子的手法による検定を行って本ウイロイドに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

#### ア (略)

イ 種子の検定は、輸出までに、国際種子検査協会が定める国際種子検査 規程の抽出方法に準拠した方法で同一の荷口単位から無作為に抽出した4,600粒について、最大 400 粒ずつ行うこと。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000粒未満の場合、当 該荷口単位に含まれる 種子数の10%を抽出し 検定に供すること。

## (2) 生植物について

生育期中又は収穫から 輸出までに、同一の荷口単 位から無作為に抽出した 植物及び病徴の疑われる

	る植物について、RT-PCR法			植物について、RT-PCR 法等
	等の適切な遺伝子診断法			の適切な <u>遺伝子的手法</u> に
	による検定を行って本ウ			よる検定を行って本ウイ
	イロイドに侵されていな			ロイドに侵されていない
	いことを確認し、その旨を			ことを確認し、その旨を検
	検査証明書に追記するこ			査証明書に追記すること。
	と。			
25 Pepino mosaic virus	(1) 種子について	25	Pepino mosaic virus	(1) 種子について
	採種用の親植物又は種			採種用の親植物又は種
	子について <u>、次の方法によ</u>			子について ELISA 法等の適
	<u>り</u> ELISA 法等の適切な <u>血清</u>			切な <u>血清学的方法</u> 又は RT-
	学的診断法又は RT-PCR 法			PCR 法等の適切な <u>遺伝子的</u>
	等の適切な <u>遺伝子診断法</u>			<u>手法</u> による検定を行って
	による検定を行って本ウ			本ウイルスに侵されてい
	イルスに侵されていない			ないことを確認し、その旨
	ことを確認し、その旨を検			を検査証明書に追記する
	査証明書に追記すること。			こと。
	ア (略)			ア (略)
	イ 種子の検定は、輸出ま			イ 種子の検定は、輸出ま
	でに、国際種子検査協会			でに、国際種子検査協会
	が定める国際種子検査			が定める国際種子検査
	規程の抽出方法に準拠			規程の抽出方法に準拠
	した方法で同一の荷口			した方法で同一の荷口
	単位から無作為に抽出			単位から無作為に抽出
	した 4,600 粒について、			した 4,600 粒について、
	ELISA 法等の <u>血清学的診</u>			ELISA 法等の <u>血清学的方</u>

断法による検定にあっ 法による検定にあって ては最大250粒ずつ、RT-は最大 250 粒ずつ、RT-PCR 法等の遺伝子診断法 PCR 法等の遺伝子的手法 による検定にあっては による検定にあっては 最大 400 粒ずつ行うこ 最大 400 粒ずつ行うこ と。 と。 なお、同一の荷口単位 なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が に含まれる種子が 46,000 粒未満の場合は、 46,000 粒未満の場合、当 当該荷口単位に含まれ 該荷口単位に含まれる る種子数の 10%を抽出 種子数の 10%を抽出し し、検定に供すること。 検定に供すること。 (2) 生植物について (2) 生植物について 生育期間中又は収穫か 生育期中又は収穫から ら輸出までに、同一の荷口 輸出までに、同一の荷口単 単位から無作為に抽出し 位から無作為に抽出した た植物及び病徴の疑われ 植物及び病徴の疑われる る植物について、ELISA 法 植物について、ELISA 法等 等の適切な血清学的診断 の適切な血清学的方法又 法又は RT-PCR 法等の適切 は RT-PCR 法等の適切な遺 な遺伝子診断法による検 伝子的手法による検定を 定を行って本ウイルスに 行って本ウイルスに侵さ 侵されていないことを確 れていないことを確認し、 認し、その旨を検査証明書 その旨を検査証明書に追 に追記すること。 記すること。 (1) 種子について (1) 種子について 26 Columnea latent viroid 26 Columnea latent viroid

採種用の親植物又は種子について、次の方法により RT-PCR 法等の適切な遺伝子診断法による検定を行って本ウイロイドに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

#### ア (略)

イ 種子の検定は、輸出までに、国際種子検査協会が定める国際種子検査 規程の抽出方法に準拠した方法で同一の荷口単位から無作為に抽出した4,600粒について、最大 400 粒ずつ行うこと。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000粒未満の場合<u>は</u>、 当該荷口単位に含まれ る種子数の10%を抽出 し、検定に供すること。

(2) 生植物について生育期間中又は収穫から輸出までに、同一の荷口

採種用の親植物又は種子について RT-PCR 法等の適切な遺伝子的手法による検定を行って本ウイロイドに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

#### ア (略)

イ 種子の検定は、輸出までに、国際種子検査協会が定める国際種子検査 規程の抽出方法に準拠した方法で同一の荷口単位から無作為に抽出した4,600粒について、最大 400 粒ずつ行うこと。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000粒未満の場合、当 該荷口単位に含まれる 種子数の10%を抽出し 検定に供すること。

(2)生植物について

生育期中又は収穫から 輸出までに、同一の荷口単

	l	ı	ı		Í		ı
	単位から無作為に抽出し					位から無作為に抽出した	
	た植物及び病徴の疑われ					植物及び病徴の疑われる	
	る植物について、RT-PCR法					植物について、RT-PCR 法等	
	等の適切な <u>遺伝子診断法</u>					の適切な <u>遺伝子的手法</u> に	
	による検定を行って本ウ					よる検定を行って本ウイ	
	イロイドに侵されていな					ロイドに侵されていない	
	いことを確認し、その旨を					ことを確認し、その旨を検	
	検査証明書に追記するこ					査証明書に追記すること。	
	と。						
27 Sphaeropsis tumefaciens	当該植物の生育期間中に栽		27 削除				1
(カンキツ類てんぐ巣病菌)	<u>培地検査を行って本菌の発生</u>						
	がないことを確認し、その旨を						
	検査証明書に追記すること。						
28 Tomato apical stunt	(1)種子について		28 Tomato	apical st	tunt	(1) 種子について	
viroid	採種用の親植物又は種		viroid			採種用の親植物又は種	
	子について <u>、次の方法によ</u>					子について RT-PCR 法等の	
	<u>り</u> RT-PCR 法等の適切な <u>遺</u>					適切な <u>遺伝子的手法</u> によ	
	<u>伝子診断法</u> による検定を					る検定を行って本ウイロ	
	行って本ウイロイドに侵					イドに侵されていないこ	
	されていないことを確認					とを確認し、その旨を検査	
	し、その旨を検査証明書に					証明書に追記すること。	
	追記すること。						
	ア (略)					ア (略)	
	イ 種子の検定は、輸出ま					イ 種子の検定は、輸出ま	

29	Tomat	o chi	!orotic	dwari
Ţ	riroid			
30	Pepper	chat	fruit	viroid

でに、国際種子検査協会 が定める国際種子検査 規程の抽出方法に準拠 した方法で同一の荷口 単位から無作為に抽出 した 4,600 粒について、 最大 400 粒ずつ行うこ と。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000粒未満の場合<u>は</u>、 当該荷口単位に含まれ る種子数の 10%を抽出 し<u></u>検定に供すること。

(2) 生植物について

生育期間中又は収穫から輸出までに、同一の荷口単位から無作為に抽出した植物及び病徴の疑われる植物について、RT-PCR法等の適切な遺伝子診断法による検定を行って本ウィードに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

29 Tomato chlorotic dwarf viroid

30 Pepper chat fruit viroid

でに、国際種子検査協会 が定める国際種子検査 規程の抽出方法に準拠 した方法で同一の荷口 単位から無作為に抽出 した4,600 粒について、 最大 400 粒ずつ行うこ と。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000粒未満の場合、当 該荷口単位に含まれる 種子数の10%を抽出し 検定に供すること。

(2) 生植物について

生育期中又は収穫から輸出までに、同一の荷口単位から無作為に抽出した植物及び病徴の疑われる植物について、RT-PCR法等の適切な遺伝子的手法による検定を行って本ウイロイドに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

		planta	macho
VII	roid		

#### (1) 種子について

採種用の親植物又は種子について、次の方法により RT-PCR 法等の適切な遺伝子診断法による検定を行って本ウイロイドに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

#### ア (略)

イ 種子の検定は、輸出までに、国際種子検定協会が定める国際種子検査規程の抽出方法に準拠した方法で同一の荷口単位から無作為に抽出した4,600粒について、最大400粒でつけること。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000粒未満の場合<u>は</u>、 当該荷口単位に含まれ る種子数の 10%を抽出 し<u></u>検定に供すること。

(2) 生植物について 生育期間中又は収穫か

# 31 Tomato planta macho viroid

#### (1) 種子について

採種用の親植物又は種子について RT-PCR 法等の適切な遺伝子学的手法による検定を行って本ウイロイドに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

#### ア (略)

イ 種子の検定は、輸出までに、国際種子検定協会が定める国際種子検査規程の抽出方法に準拠した方法で同一の荷口単位から無作為に抽出した4,600粒について、最大400粒でつけっこと。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000粒未満の場合、当 該荷口単位に含まれる 種子数の10%を抽出し 検定に供すること。

(2) 生植物について 生育期中又は収穫から

	ら輸出までに、同一の荷口 単位から無作為に抽出し た植物及び病徴の疑われ る植物について、RT-PCR 法 等の適切な遺伝子診断法 による検定を行って本ウ イロイドに侵されていな いことを確認し、その旨を 検査証明書に追記するこ と。			輸出までに、同一の荷口単位から無作為に抽出した植物及び病徴の疑われる植物について、RT-PCR 法等の適切な遺伝子的手法による検定を行って本ウイロイドに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。
32 <u>Curtobacterium</u> <u>flaccumfaciens</u> pv. <u>flaccumfaciens (インゲンマメ萎ちょう細菌病菌)</u>	採種用の親植物について、生 育後期に栽培地検査を行って 本細菌の発生がないことを確 認し、その旨を検査証明書に追 記すること。		32 <u>Peronospora chlorae</u>	(1)種子について 採種用の親植物につい て、本菌の発生がない状態 が維持されている地域(ほ 場及び栽培施設を含む。) として輸出国の政府機関 が指定する地域で栽培さ れたことを確認し、その旨 を検査証明書に追記する こと。 (2)生植物について 本菌の発生がない状態 が維持されている地域で 栽培された親植物から採 種された種子から生産さ れ、本菌の発生がない状態

					ĺ	が維持されている施設と
						して輸出国の政府機関が
						指定する栽培施設で次の
						措置を行って栽培された
						ものについて、未使用の又
						は 60℃以上で 30 分間以
						上熱処理された培養資材
						が使用されていることを
						確認し、その旨を検査証明
						書に追記すること。
						ア 栽培施設及び栽培に
						用いる器具の消毒
						<u>イ</u> 生育期中の薬剤散布
33 Indian peanut clump	(1)種子について	33	Indian	peanut	c1ump	(1)種子について
virus	採種用の親植物又は種	viru	'S			採種用の親植物又は種
	子について <u>、次の方法によ</u>					子について RT-PCR 法等の
	<u>り</u> RT-PCR 法等の適切な <u>遺</u>					適切な <u>遺伝子学的手法</u> に
	<u>伝子診断法</u> による検定を					よる検定を行って本ウイ
	行って本ウイルスに侵さ					ルスに侵されていないこ
	れていないことを確認し、					とを確認し、その旨を検査
	その旨を検査証明書に追					証明書に追記すること。
	記すること。					
	ア (略)					ア (略)
	イ 種子の検定は、輸出ま					イ 種子の検定は、輸出ま
	でに、国際種子検定協会					でに、国際種子検定協会
	が定める国際種子検査					が定める国際種子検査

	規程の抽出方法に準拠		規程の抽出方法に準拠
	した方法で同一の荷口		した方法で同一の荷口
	単位から無作為に抽出		単位から無作為に抽出
	した 4,600 粒について、		した 4,600 粒について、
	最大 400 粒ずつ行うこ		最大 400 粒ずつ行うこ
	と。		と。
	なお、同一の荷口単位		なお、同一の荷口単位
	に含まれる種子が		に含まれる種子が
	46,000 粒未満の場合 <u>は</u> 、		46,000 粒未満の場合、当
	当該荷口単位に含まれ		該荷口単位に含まれる
	る種子数の 10%を抽出		種子数の 10%を抽出し
	し <u>、</u> 検定に供すること。		検定に供すること。
	(2) 生植物について		(2) 生植物について
	生育期間中又は収穫か		生育期間中又は収穫か
	ら輸出までに、同一の荷口		ら輸出までに、同一の荷口
	単位から無作為に抽出し		単位から無作為に抽出し
	た植物及び病徴の疑われ		た植物及び病徴の疑われ
	る植物について、RT-PCR 法		る植物について、RT-PCR 法
	等の適切な <u>遺伝子診断法</u>		等の適切な <u>遺伝子的手法</u>
	による検定を行って本ウ		による検定を行って本ウ
	イルスに侵されていない		イルスに侵されていない
	ことを確認し、その旨を検		ことを確認し、その旨を検
	査証明書に追記すること。		査証明書に追記すること。
34 Maize chlorotic mottle	(1) 種子について	34 Maize chlorotic mottle	(1) 種子について
virus	採種用の親植物又は種	virus	採種用の親植物又は種
	子について <u>、次の方法によ</u>		子についてELISA 法等の適

りELISA法等の適切な<u>血清</u>学的診断法又は RT-PCR 法等の適切な遺伝子診断法 による検定を行って本ウイルスに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。ア(略)

イ 種子の検定は、輸出までに、国際種子検定協会が定める国際種子検査規程の抽出方法に準拠した方法で同一の荷口単位から無作為に抽出した4,600粒について、最大100粒ずつ行うこ

と。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000粒未満の場合<u>は</u>、 当該荷口単位に含まれ る種子数の 10%を抽出 し<u></u>検定に供すること。 切な<u>血清学的方法</u>又は RT-PCR 法等の適切な<u>遺伝子学的手法</u>による検定を行って本ウイルスに侵されていないことを確認し、その旨を検査証明書に追記すること。

## ア (略)

イ 種子の検定は、輸出までに、国際種子検定協会が定める国際種子検査規程の抽出方法に準拠した方法で同一の荷口単位から無作為に抽出した4,600粒について、ELISA 法等の血清学的方法による検定及び RT-PCR 法等の遺伝子的手法による検定のいずれにあっても最大100粒ずつ行うこと。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 46,000粒未満の場合、当 該荷口単位に含まれる 種子数の10%を抽出し 検定に供すること。

	(2) 生植物について	ĺ					(2) 生植物について
	生育期間中又は収穫か						生育期間中又は収穫か
	ら輸出までに、同一の荷口						ら輸出までに、同一の荷口
	単位から無作為に抽出し						単位から無作為に抽出し
	た植物及び病徴の疑われ						た植物及び病徴の疑われ
	る植物について、ELISA 法						る植物について、ELISA 法
	等の適切な血清学的診断						等の適切な <u>血清学的方法</u>
	<u>法</u> 又は <u>RT-PCR 法</u> 等の適切						又は <u>RTPCR 法</u> 等の適切な <u>遺</u>
	な <u>遺伝子診断法</u> による検						<u>伝子的手法</u> による検定を
	定を行って本ウイルスに						行って本ウイルスに侵さ
	侵されていないことを確						れていないことを確認し、
	認し、その旨を検査証明書						その旨を検査証明書に追
	に追記すること。						記すること。
35 Pea early-browning virus	(1)種子について		35	Pea ea	nrly-brown	ing virus	(1)種子について
	採種用の親植物又は種						採種用の親植物又は種
	子について <u>、次の方法によ</u>						子について ELISA 法等の適
	<u>り</u> ELISA法等の適切な <u>血清</u>						切な <u>血清学的方法</u> 又は RT-
	学的診断法又は RT-PCR 法						PCR 法等の適切な <u>遺伝子学</u>
	等の適切な <u>遺伝子診断法</u>						<u>的手法</u> による検定を行っ
	による検定を行って本ウ						て本ウイルスに侵されて
	イルスに侵されていない						いないことを確認し、その
	ことを確認し、その旨を検						旨を検査証明書に追記す
	査証明書に追記すること。						ること。
	ア (略)						ア (略)
	イ 種子の検定は、輸出ま						イ 種子の検定は、輸出ま
	でに、国際種子検定協会						でに、国際種子検定協会

が定める国際種子検査 規程の抽出方法に準拠 した方法で同一の荷口 単位から無作為に抽出 した3,100粒について、 最大 100 粒ずつ行うこ と。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 31,000粒未満の場合<u>は</u>、 当該荷口単位に含まれ る種子数の10%を抽出 し、検定に供すること。

## (2) 生植物について

生育期間中又は収穫から輸出までに、同一の荷口単位から無作為に抽出した植物及び病徴の疑われる植物ついて、ELISA法等の適切な血清学的診断法又はRT-PCR法等の適切な遺伝子診断法による検定を行って本ウイルスに侵

が定める国際種子検査 規程の抽出方法に準拠 した方法で同一の荷口 単位から無作為に抽出 した3,100粒について、 ELISA 法等の血清学的方 法による検定及び RT-PCR 法等の遺伝子的手法 による検定のいずれに あっても最大100粒ずつ 行うこと。

なお、同一の荷口単位 に含まれる種子が 31,000粒末満の場合、当 該荷口単位に含まれる 種子数の10%を抽出し 検定に供すること。

## (2) 生植物について

生育期間中又は収穫から輸出までに、同一の荷口単位から無作為に抽出した植物及び病徴の疑われる植物ついて、ELISA法等の適切な<u>血清学的方法</u>又は<u>RTPCR法</u>等の適切な<u>遺伝子的手法</u>による検定を行って本ウイルスに侵され

	されていないことを確認 し、その旨を検査証明書に 追記すること。		ていないことを確認し、そ の旨を検査証明書に追言 すること。
36 Tomato brown rugose	(1) 種子について	36 Tomato brown rugose	(1) 種子について
fruit virus	採種用の親植物又は種	fruit virus	採種用の親植物又は種
	子について <u>、次の方法によ</u>		子について適切な <u>遺伝子</u>
	<u>り</u> 適切な <u>遺伝子診断法</u> に		学的手法による検定を行
	よる検定を行って本ウイ		って本ウイルスに侵され
	ルスに侵されていないこ		ていないことを確認し、そ
	とを確認し、その旨を検査		の旨を検査証明書に追言
	証明書に追記すること。		すること。
	ア 親植物の検定は、無作		ア 親植物の検定は、無何
	為に抽出した植物及び		為に抽出した植物及び
	病徴の疑われる植物に		病徴の疑われる植物に
	ついて、RT-PCR 法等の適		ついて、RT-PCR 法等の通
	切な <u>遺伝子診断法</u> によ		切な <u>遺伝子学的手法</u> [
	る検定を行うこと。		よる検定を行うこと。
	イ 種子の検定は、輸出ま		イ 種子の検定は、輸出す
	でに、国際種子検定協会		でに、国際種子検定協会
	が定める国際種子検査		が定める国際種子検査
	規程の抽出方法に準拠		規程の抽出方法に準拠
	した方法で同一の荷口		した方法で同一の荷口
	単位から無作為に抽出		単位から無作為に抽出
	した 4,600 粒について、		した 4,600 粒について、
	最大 400 粒ずつ、リアル		最大 400 粒ずつ、リアハ
	タイム RT-PCR 法による		タイム RT-PCR 法による

1	1	j	1	1
	検定を行うこと。			検定を行うこと。
	なお、同一の荷口単位			なお、同一の荷口単位
	に含まれる種子が			に含まれる種子が
	46,000 粒未満の場合 <u>は</u> 、			46,000 粒未満の場合、当
	当該荷口単位に含まれ			該荷口単位に含まれる
	る種子数の 10%を抽出			種子数の 10%を抽出し
	し <u>、</u> 検定に供すること。			検定に供すること。
	(2) 生植物について			(2) 生植物について
	生育期間中又は収穫か			生育期間中又は収穫か
	ら輸出までに、同一の荷口			ら輸出までに、同一の荷口
	単位から無作為に抽出し			単位から無作為に抽出し
	た植物及び病徴の疑われ			た植物及び病徴の疑われ
	る植物について、RT-PCR法			る植物について、RT-PCR法
	等の適切な <u>遺伝子診断法</u>			等の適切な <u>遺伝子的手法</u>
	による検定を行って本ウ			による検定を行って本ウ
	イルスに侵されていない			イルスに侵されていない
	ことを確認し、その旨を検			ことを確認し、その旨を検
	査証明書に追記すること。			査証明書に追記すること。
37 Tomato leaf curl New	生育期間中又は収穫から輸		37 Tomato leaf curl New	生育期間中又は収穫から輸
Delhi virus	出までに、同一の荷口単位から		Delhi virus	出までに、同一の荷口単位から
	無作為に抽出した植物及び病			無作為に抽出した植物及び病
	徴の疑われる植物について、			徴の疑われる植物について、
	ELISA 法等の適切な血清学的診			ELISA 法等の適切な血清学的診
	断法又はPCR法等の適切な <u>遺伝</u>			断法又はPCR法等の適切な <u>遺伝</u>
	<u>子診断法</u> による検定を行って			<u>子的手法</u> による検定を行って
	本ウイルスに侵されていない			本ウイルスに侵されていない

ı	i i	i i	1			1
	ことを確認し、その旨を検査証					ことを確認し、その旨を検査証
	明書に追記すること。					明書に追記すること。
38 Plum pox virus(ウメ輪紋	媒介昆虫の防除が十分に行		38	Zucchini green	mottle	(1) 種子について
<u>ウイルス)</u>	われたほ場で栽培され、当該植		mo	osaic virus		採種用の親植物又は種
	物の生育初期に栽培地検査を					子について ELISA 法等の適
	行って本ウイルスの発生がな					切な血清学的方法又は RT-
	いことを確認し、その旨を検査					PCR 法等の適切な遺伝子学
	証明書に追記すること。					<u>的手法による検定を行っ</u>
						て本ウイルスに侵されて
						<u>いないことを確認し、その</u>
						旨を検査証明書に追記す
						<u>ること。</u>
						ア 親植物の検定は、無作
						為に抽出した植物及び
						<u>病徴の疑われる植物に</u>
						<u>ついて行うこと。</u>
						<u>イ</u> 種子の検定は、輸出ま
						でに、国際種子検定協会
						が定める国際種子検査
						規程の抽出方法に準拠
						した方法で同一の荷口
						単位から無作為に抽出
						した 4,600 粒について、
						ELISA 法等の血清学的方
						法による検定及び RT-
						PCR 法等の遺伝子的手法

1	1	1 1	1	による松堂のいだれば
				による検定のいずれに
				あっても最大100粒ずつ
				<u>行うこと。</u>
				なお、同一の荷口単位
				に含まれる種子が
				46,000 粒未満の場合、当
				該荷口単位に含まれる
				種子数の 10%を抽出し
				<u>検定に供すること。</u>
				(2) 生植物について
				生育期間中又は収穫か
				ら輸出までに、同一の荷口
				単位から無作為に抽出し
				た植物及び病徴の疑われ
				る植物について、ELISA 法
				等の適切な血清学的方法
				又は RT-PCR 法等の適切な
				遺伝子的手法による検定
				を行って本ウイルスに侵
				されていないことを確認
				し、その旨を検査証明書に
				追記すること。
39 <u>Clavibacte</u>			39 <u>Broad bean stain virus</u>	
<u>michiganensis</u> subsp			(ソラマメステインウイル	て本ウイルスに侵されていな
nebraskensis(トウモロコミ	✓ <u>て本細菌の発生がないことを</u>		<u>ス)</u>	いことを確認し、その旨を検査
葉枯細菌病菌)	確認し、その旨を検査証明書に			証明書に追記すること。

	追記すること。			(1) 採種用の親植物につい
				て、媒介昆虫の防除が十分
				に行われたほ場で栽培さ
				れ、生育最盛期に栽培地検
				査を行って本ウイルスの
				発生がないことを確認す
				<u>ること。</u>
				(2) 採種用の親植物又は種子
				について、ELISA 法等の適
				切な血清学的方法による
				検定を行って本ウイルス
				<u>に侵されていないことを</u>
				確認すること。_
				ア 親植物の検定は、無作
				為に抽出した植物及び
				病徴の疑われる植物に
				<u>ついて行うこと。</u>
				<u>イ</u> 種子の検定は、輸出ま
				でに、国際種子検定協会
				が定める国際種子検査
				規程の抽出方法に準拠
				した方法で同一の荷口
				単位から無作為に抽出
				<u>した4,600粒について、</u>
				<u>最大 100 粒ずつ行うこ</u>
				<u>と。</u>
				なお、同一の荷口単位
		45	5	

I		1			1
					に 含 ま れ る 種 子 が
					46,000 粒未満の場合、当
					<u>該荷口単位に含まれる</u>
					種子数の 10%を抽出し
					検定に供すること。
40 <u>Pantoea stewartii</u> subsp.	(1) 種子について		40 <u>Anastreph</u>	a striata	輸出国の政府機関が別記3
stewartii (トウモロコシ萎	<u>次のいずれかの措置を</u>				<u>の1の(1)に定める事項を記</u>
ちょう細菌病菌)	行って本細菌に侵されて				載した作業計画を作成し、か
	いないことを確認し、その				つ、当該作業計画が科学的かつ
	旨を検査証明書に追記す				技術的な見地からみて適切で
	<u> </u>				あることを植物検疫当局によ
	ア 採種用の親植物につ				り確認された場合、輸出国の政
	いて、媒介昆虫の防除が				府機関は当該作業計画に基づ
	<u>十分に行われたほ場で</u>				いて行う監督の下、次のいずれ
	栽培され、生育最盛期に				かの措置を行って本害虫に侵
	栽培地検査を行って本				されていないことを確認し、そ
	細菌の発生がないこと				の旨を検査証明書に追記する
	を確認すること。				<u>こと。</u>
	<u>イ</u> 採種用の親植物又は				(1)本害虫が発生していない
	種子について、次の方法				<u>状態が維持されている地</u>
	により PCR 法等の適切な				域として輸出国の政府機
	遺伝子診断法による検				関が植物検疫当局に認め
	定を行って本細菌に侵				られた手続により指定す
	されていないことを確				<u>る地域において生産され</u>
	認すること。				<u>ること。</u>
	(ア) 親植物の検定は、無				(2)輸出国の政府機関が指定
I	I	1			<u> </u>

作為に抽出した植物及び病徴の疑われる植物について行うこと。

(イ)種子の検定は、輸出 までに、国際種子検定 協会が定める国際種 子検査規程の抽出方 法に準拠した方法で 同一の荷口単位から 無作為に抽出した 460 粒について、最大 100 粒ずつ行うこと。

なお、同一の荷口単位に含まれる種子が4,600 粒未満の場合は、当該荷口単位に含まれる種子数の10%を抽出し、検定に供すること。

(2) テオシント及びトウモロ コシの生植物について 次のいずれかの措置を 行って本細菌に侵されて いないことを確認し、その 旨を検査証明書に追記す ること。 する処理施設において、植物検疫当局に認められた 方法により本害虫の殺虫 処理が行われること。なお、当該殺虫処理を行った場合は、その旨(当該殺虫 処理を行った日付及びその方法を含む。)を検査証明書の所定の欄に追記すること。

- ア 媒介昆虫の防除が十 分に行われたほ場で栽培され、生育最盛期に栽培地検査を行って本細菌の発生がないことを確認すること。
- イ 生育期間中又は輸出 前までに、同一の荷口単 位から無作為に抽出し た植物及び病徴の疑わ れる植物について、PCR 法等の適切な遺伝子診 断法による検定を行っ て本細菌に侵されてい ないことを確認するこ と。
- (3) サトウキビ属植物の生植 物について

次のいずれかの措置を 行って本細菌に侵されて いないことを確認し、その 旨を検査証明書に追記す ること。

ア媒介昆虫の防除が十分に行われたほ場で栽培され、生育最盛期に栽培地検査を行って本細

41 Tomato mottle mosaic virus	菌の発生がないことを確認すること。 イ 生育期間中に、同一の 荷田 世位から無作為に 抽出した植物及び の 選 した植物の と で で で で で で で で で で で で で で で で で で	41 Tomato virus	mottle mosaic	(1)種子について 採種用の親植物又は種子 について RT-PCR 法等の適切 な <u>遺伝子学的手法</u> による検 定を行って本ウイルスに侵 されていないことを確認し、 その旨を検査証明書に追記 すること。 ア (略) イ 種子の検定は、輸出前ま
	いことを確認し、その旨を検 査証明書に追記すること。 ア (略) イ 種子の検定は、輸出前ま			その旨を検査証明書に追記 すること。 ア (略) イ 種子の検定は、輸出前ま
	でに、国際種子検定協会が定める国際種子検査規程の抽出方法に準拠した方法で同一の荷口単位から無作為に抽出した4,600粒			でに、国際種子検定協会が 定める国際種子検査規程 の抽出方法に準拠した方 法で同一の荷口単位から 無作為に抽出した4,600粒

İ	1 1	1
	について、最大 400 粒ずつ	について、最大 400 粒ずつ
	行うこと。	行うこと。
	なお、同一の荷口単位に	なお、同一の荷口単位に
	含まれる種子が 46,000 粒	含まれる種子が 46,000 粒
	未満の場合 <u>は</u> 、当該荷口単	未満の場合、当該荷口単位
	位に含まれる種子数の	に含まれる種子数の 10%
	10%を抽出し <u>、</u> 検定に供す	を抽出し検定に供するこ
	ること。	と。
	(2) 生植物について	(2) 生植物について
	生育期間中又は輸出前	生育期間中又は輸出前
	までに、同一の荷口単位か	までに、同一の荷口単位か
	ら無作為に抽出した植物	ら無作為に抽出した植物
	及び病徴の疑われる植物	及び病徴の疑われる植物
	について、RT-PCR 法等の適	について、RT-PCR 法等の適
	切な <u>遺伝子診断法</u> による	切な <u>遺伝子的手法</u> による
	検定を行って本ウイルス	検定を行って本ウイルス
	に侵されていないことを	に侵されていないことを
	確認し、その旨を検査証明	確認し、その旨を検査証明
	書に追記すること。	書に追記すること。
(削る。)		42 <u>Bretziella fagacearum</u> 培養資材及び根回りの被覆
		(ナラ類しおれ病菌) の用に供する資材について、
		71℃以上で 75 分間以上の熱処
		理を受けたことを処理した日
		付とともに検査証明書の所定
		の欄に記載し、かつ、当該熱処
		理を実施して本菌に侵されて

		いないことを検査証明書に追
		記すること。
(削る。)	43 Pantoea stewartii subsp.	(1) 種子について
	<u>stewartii</u> (トウモロコシ萎ち	<u>次のいずれかの措置を</u>
	ょう細菌病菌)	行って本細菌に侵されて
		いないことを確認し、その
		旨を検査証明書に追記す
		<u>ること。</u>
		ア 採種用の親植物につ
		いて、媒介昆虫の防除が
		<u>十分に行われたほ場で</u>
		<u>栽培され、生育最盛期に</u>
		栽培地検査を行って本
		細菌の発生がないこと
		を確認すること。
		<u>イ</u> 採種用の親植物又は
		種子について、PCR 法等
		の適切な遺伝子学的手
		<u>法による検定を行って</u>
		<u>本細菌に侵されていな</u>
		いことを確認すること。
		(ア) 親植物の検定は、無
		作為に抽出した植物
		及び病徴の疑われる
		植物について行うこ
		<u>と。</u>

			(イ) 種子の検定は、輸出
			までに、国際種子検定
			協会が定める国際種
			- <u> </u>
			法に準拠した方法で
			同一の荷口単位から
			無作為に抽出した 460
			粒について、最大 100
			粒ずつ行うこと。
			なお、同一の荷口単
			位に含まれる種子が
			4,600 粒未満の場合、
			当該荷口単位に含ま
			<u> </u>
			抽出し検定に供する
			(2) テオシント及びトウモロ
			コシの生植物について
			次のいずれかの措置を
			行って本細菌に侵されて
			いないことを確認し、その
			旨を検査証明書に追記す
			<u> </u>
			ア 媒介昆虫の防除が十
			分に行われたほ場で栽
			培され、生育最盛期に栽
			培地検査を行って本細
ı	I I 5	52	

1	[	1			ı
				菌の発生がないことを	
				確認すること。	
				<u>イ</u> 生育期間中又は輸出	
				前までに、同一の荷口単	
				位から無作為に抽出し	
				た植物及び病徴の疑わ	
				れる植物について、PCR	
				法等の適切な遺伝子的	
				手法による検定を行っ	
				て本細菌に侵されてい	
				ないことを確認するこ	
				(3)サトウキビ属植物の生植	
				物について	
				<u>次のいずれかの措置を</u>	
				<u>行って本細菌に侵されて</u>	
				<u>いないことを確認し、その</u>	
				<u>旨を検査証明書に追記す</u>	
				<u>ること。</u>	
				ア 媒介昆虫の防除が十	
				分に行われたほ場で栽	
				培され、生育最盛期に栽	
				培地検査を行って本細	
				菌の発生がないことを	
				確認すること。	
				イ 生育期間中に、同一の	
				-	
	I		,	荷口単位から無作為に	1
		53	5		

	1		Ì		抽出した植物及び病徴
					の疑われる植物につい
					て、PCR 法等の適切な遺
					伝子的手法による検定
					を行って本細菌に侵さ
					れていないことを確認
					すること。
	(削る。)			44 Broad bean true mosaic	(1) 種子について
				virus (ソラマメトゥルーモ	<u>次のいずれかの措置を</u>
				<u>ザイクウイルス)</u>	行って本ウイルスに侵さ
					れていないことを確認し、
					その旨を検査証明書に追
					<u>記すること。</u>
					ア 採種用の親植物につ
					いて、媒介昆虫の防除が
					十分に行われたほ場で
					栽培され、生育最盛期に
					栽培地検査を行って本
					ウイルスの発生がない
					ことを確認すること。
					<u>イ</u> 採種用の親植物又は
					種子について、ELISA 法
					等の適切な血清学的手
					法による検定を行って
					本ウイルスに侵されて
					いないことを確認する
1	I	I I		1	

	<u>こと。</u>
	作為に抽出した植物
	内がた油出した温板           及び病徴の疑われる
	植物について行うこ
	<u>と。</u>
	までに、国際種子検定
	協会が定める国際種
	子検査規程の抽出方
	法に準拠した方法で
	同一の荷口単位から
	無作為に抽出した
	4,600 粒について、最
	<u>ナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</u>
	 <u>ك</u> 。
	当該荷口単位に含ま
	<u>れる種子数の 10%を</u>
	抽出し検定に供する
	<u>こと。</u>
	(2) 生植物について
	次のいずれかの措置を
	行って本ウイルスに侵さ
	れていないことを確認し、

1	その旨を検査証明書に追
	記すること。
	<u>ア</u> 媒介昆虫の防除が十
	<u>分に行われたほ場で栽</u>
	培され、生育最盛期に栽
	培地検査を行って本ウ
	<u>イルスの発生がないこ</u>
	とを確認すること。
	<u>イ</u> 生育期間中又は輸出
	前までに、同一の荷口単
	位から無作為に抽出し
	た植物及び病徴の疑わ
	れる植物について、
	ELISA 法等の適切な血清
	学的手法による検定を
	行って本ウイルスに侵
	されていないことを確
	認すること。

(削る。)

## 別記3

地域指定の手続又は殺虫処理の方法の確認手続について

- 1 地域指定の手続又は殺虫処理の方法に係る資料の提出
- (1)輸出国の政府機関は、規則別表2の2の1の項から5の項まで及び 40 の項により、我が国に輸出をしようとする検疫措置要求植物に関 する地域指定の手続又は殺虫処理の方法に係る資料として、次の事 項が記載された作業計画を提出するものとする。

- ア 対象となる検疫有害動植物(以下「対象検疫有害動植物」という。)及び検疫措置要求植物に関する事項
- イ 輸出国の政府機関及びその他の関係機関の役割や責任に関する 事項
- ウ 輸出国の政府機関による地域指定の手続に関する事項(指定地域名及び指定地域の維持に関する事項を含む。)又は殺虫処理の方法に関する事項(輸出国の政府機関による殺虫処理施設の指定に関する事項を含む。)
- 工 こん包施設及びこん包に関する事項(輸出までの間の汚染防止 措置やこん包の表示及び封印に関する事項を含む。)
- オ 輸出国の政府機関が検査証明書に追記することその他の輸出検 査に関する事項(輸出検査において対象検疫有害動植物が発見さ れた場合の対応を含む。)
- カ 植物防疫官による輸入検査において、対象検疫有害動植物が発 見された場合の対応に関する事項
- キ 作業計画の内容の変更等に関する事項
- (2) 当該作業計画には、(1) の事項の有効性を示す根拠となる対象検 疫有害動植物の発生状況の調査結果(無発生を設定するためのシス テム、無発生の状況を維持するための植物検疫措置及び無発生の状 況が維持されていることの確認方法を含む。)、殺虫試験データ等の 技術的根拠を添付するものとする。

ただし、対象検疫有害動植物に関連する植物検疫措置に関する国際基準その他現に国際的に運用されている殺虫処理方法(以下「関連する ISPM 等」という。)による場合は、この限りでない。

(3)輸出国の政府機関は、我が国に輸出をしようとする検疫措置要求植物について、我が国以外の国等向けに輸出実績がある場合は、直近3年間の各年の輸出数量(こん包数を含む。)及び当該検疫有害動植物

の発見事例に係る情報を植物検疫当局に提出するものとする。

- 2 地域指定の手続又は殺虫処理の方法に係る資料の確認
- (1) 植物検疫当局は、1により提出された資料が、科学的かつ技術的な 見地からみて適切であること (関連する ISPM 等による場合にあって は、当該関連する ISPM 等に適合していること) を確認するものとす る。なお、植物検疫当局は、1により提出された資料の内容につき変 更を求めることがある。
- (2)植物検疫当局は、輸出国の政府機関に対し、1により提出された資料の確認の結果を書面により通知するものとする。
- 3 確認結果の公表

植物検疫当局は、2(2)による通知を行った場合には、輸出国の名 称、要請のあった植物及び地域指定の手続又は殺虫処理の方法の概要 を農林水産省ホームページにおいて公表するものとする。

附則

この改正は、令和5年8月1日から施行する。